



夢を共有して乗り切り

循環型社会の形成へ

(社)日本環境衛生施設工業会 会長 藤村 宏幸



JEFMA 第47回総会懇親会で挨拶する藤村会長

どうも皆さんこんばんは。本日は大変お忙しい中、第47回総会のあとの懇親会にご臨席を賜りましてありがとうございます。特に、環境省の南川部長、由田課長はじめ幹部の皆様方、そして学識経験者の皆様方、関係諸団体の幹部の皆様方においでいただきましてありがとうございます。あわせまして、日ごろたいへんお世話になっておりますことを、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

先程の総会と同じことを言うようですが、日本経済は、米国、東南アジア及び特に中国の好況の影響やデジタル家電などの好調に支えられて非常に明るさを取り戻しつつあり、昨今では

民間の設備投資とか、あるいは消費におきましても好調になりつつあるというような感じも持っております。しかし、今日お集まりの皆様方のお仕事の分野というのは、それとはちょっと違っておまして、あまり明るいとはいえない状態でございます。そういう中で環境省の皆様方には循環型社会構築に向かって「固形廃棄物の適正処理」、あるいは「汚泥再生センターにおけるリンの回収」等、新たな施策を含めた力強い施策を推進していただいていることをたいへんありがたく思っております。私たち会員は、過去の技術的な蓄積と、そして新しい技術をどんどん準備することによりまして、その

趣旨に沿った活動を強化し、お役に立っていただければと思っております。

先程も副会長の森下さんに「今日は参会者がどうも例年に比べて少ないんじゃないか」と言いましたら「そうじゃない」「例年通りだ」とおっしゃる。これはものを見る目も見方がございまして、気分のいいときは気分良く見えますし、ちょっと沈んでいるときは何を見ても悲しく見えるというのがどうも人間のようでございます。そういう意味でちょっと元気がないかなという感じがしてしょうがないわけで、さっきから考えていたのです。何か元気付けるいい方法がないか・・・と。

まあこれは仕事がたくさん発注されれば一番いいんですが、名前を変えるのもいいかなとも思います。「ごみ焼却場」と言っているからどうも駄目なんじゃないかと。やはり、「焼却場」というのを、名前を変えて「ごみ発電所」とか「固形物リサイクルセンター」あるいは「廃棄物エネルギーセンター」とか、「焼却場」という名前を使わないようにすれば、焼却場の予算が削除されても発電所の予算が増えるということではないんじゃないかという感じもするわけです。

実はこういう場だから言うわけじゃなく、平生言っているので言わせていただくんですが、COP3では炭酸ガスを90年度比6パーセントの削減という、力強い施策が打ち出されているわけです。

その中には供給源と需要のほうと両面あるわけですが、需要のほうはかなり節電しなさいとか、あるいはトップランナー方式と言いまして、一番効率のいいものを大いに使いましようとか、家電の販売店に対しても省エネ機器をたくさん売ったときには表彰しますよとか、いろんな施策が実は採られています。産業界も目標を作りまして、自主的にそれに対して努力しているわけです。

しかし、供給の面で非常に問題が有るのではないか。例えば原子力発電というのは、12パーセントのシェアを2010年には15パーセントにするとしています。これはもう完全に頓挫しているわけですし、LNGの13パーセントを1パーセントかさ上げしましようというのは、これは大体達成しているんじゃないか。

また、自然エネルギーとか「ごみ（廃棄物）」やバイオマスによる再生エネルギーを合わせた、いわゆる新エネルギーの分野は1.2パーセントを3パーセントに引き上げるとしています。その中で主なるものというのは「ごみ」なんです。・・・バイオマスを含めて。

ごみ発電というのは、バイオマス発電が大半を占めているわけですがけれども、バイオマス発

電に対して、果たしてこれまでどういう手が打たれてきたのかということを考えるわけですね・・・2010年にはごみ発電については、5千万トンのごみによって400万キロワットの電力を供給いたしますというのが供給面であつたわけですが、それ程進んでいない。ですから、先程申し上げたように、「ごみ焼却場」というのはやめて、「ごみ発電所」にするならば、これは国家ポリシーですから、国家のエネルギー対策としてもっと強力な施策が採られるべきであるというふうにも思います。

外国におきましても、ごみをバイオマスと見るか見ないかという問題があり、何とかバイオマスに組み込まれるということになっているようでございますけれども、アメリカにおいてもドイツにおいてもバイオマス発電というのは強力に進めようとしているわけです。・・・ですから、ぜひその辺、これは私たちも、今技術的にはバイオマス発電で高効率発電を行う能力を持っているわけでございますので、その辺を主体にしたことをやるには、さきほど申しましたように「ごみ焼却場」を「廃棄物エネルギーセンター」と名前を変えたほうがいいかなと。そういうふうに思ったりしているわけです。

こういう場にそぐわないことではございますが、いずれにしましても何か夢を持って頑張らないと乗り切れませんので、大いに皆さん方と一緒に夢を共有して循環型社会の形成のためにわれわれが何をできるか、よく相談しながらこれから進んでいきたいし、またそれに適合した技術の開発をなお一層力強く進めるということにいたしたいと思います。

何れにいたしましても、先輩の方々のご指導を仰がないとこの辺は進まないわけでございますので、関係者一同引続いて皆様方のご指導をお願いいたしましてごあいさついたします。

どうもありがとうございました。